

|            |                                  |            |    |          |       |
|------------|----------------------------------|------------|----|----------|-------|
| 2-5        |                                  |            |    |          |       |
| 主題         | 高齢者に対するポジショニングケアの取り組みとその効果に対する研究 |            |    |          |       |
| 副題         | 声の無い声を聞く                         |            |    |          |       |
| キーワード<br>1 | ポジショニングケア                        | キーワード<br>2 | なし | 研究(実践)期間 | 10 ヶ月 |

|           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 法人名・事業所名  | 社福) 浴風会 特別養護老人ホーム第二南陽園  |
| 発表者(職種)   | 伊藤純一(介護職員)、藤原長人(介護職員)   |
| 共同研究(実践)者 | 3 階フロア職員一同、機能訓練指導員(P T) |

|     |              |       |              |
|-----|--------------|-------|--------------|
| 電 話 | 03-3334-2197 | F A X | 03-3334-1748 |
|-----|--------------|-------|--------------|

|       |                                                                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業所紹介 | 杉並区高井戸にある入所 150 床(50 名×3フロア)、短期入所 6 床の特別養護老人ホーム。敷地内には、併設病院の他、老人保健施設、2 つの特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、グループホーム、軽費老人ホーム等が有しており、総合的な高齢者福祉施設となっている。 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

3 階フロアでは、約 7 割(35 名)のご利用者がポジショニングを必要としている。介護職員はポジショニング指示書(PT が作成したポジショニング写真と、解説が記載)を参考に、ポジショニングを行っていた。しかし、指示書が一括してワーカー室にあった為、介助時に確認する際の手間となっていた。排泄時にクッションが汚れて洗濯に出した際、代わりの補充を忘れたり、違った物が使われたりしていた。その為、介護職員のクッションの当て方にバラつきがあり、指示書通りに当てる事が最優先の課題であった。又、介護職員のポジショニングやクッションに対する理解度は低く、高齢者の姿勢に対する知識は曖昧で、指示書だけでは、PT の考えが全ては、把握出来ず、ご利用者の筋緊張を高め、拘縮を助長させていた。

そこでご利用者には、出来る限り安楽な姿勢で過ごせる様、正しいポジショニングの知識習得と、介護職員の意識向上、実践的な取り組みが必要であると考えられた。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

#### <目的>

- ・高齢者にとってのポジショニングケアの重要性や効果、クッションの種類や特徴、管理方法など、ポジショニングに必要とされる知識を、介護職員が習得する。
- ・ポジショニングケアを正しく実践する事により、ご利用者の筋緊張や窮屈感を緩和させる。

#### <仮説>

- ・ポジショニングケアの取り組みを通じて、介護職員の意識が向上し、ポジショニングケアの重要性、必要性が浸透していくのではないかと。
- ・ご利用者の安楽な姿勢保持確保に繋がるのではないかと。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・介護職員や他職種がすぐに確認出来る様、指示書をご利用者別で居室に設置した。
- ・クッションを洗濯に出した際や、不足時の管理方法を見直しする。誰のどのクッションが洗濯に出ているか、補充するのかが、すぐに分かる様に、ボードを使用し、確実にご利用者に戻る体制を整えた。
- ・ポジショニングや姿勢、拘縮のメカニズムの基本的な知識と理解を習得する為、PT 主催の勉強会を実施。介護職員自らが、実際のポジショニングを受ける事で、ご利用者の苦痛や安楽を体感した。その後、介護職員でご利用者のポジショニングを検討し、PT に確認してもらう。
- ・クッションの種類や用途、特徴を明記した一覧表を作成。
- ・ポジショニングが複雑で、筋緊張が強いご利用者に対しては、ポジショニングの意図やコツ、筋緊張の和らげ方など、PT が解説する様子を動画で撮影し、いつでも確認出来る様にした。
- ・枕の高さの変更や、クッションにバスタオル 1 枚分の厚みを加えるなど、細部にこだわり、より分かり易い指示書内容に変更した。
- ・枕と頭、クッションと肘、踵の位置の微調整、上下肢の可動域や筋緊張の確認、クッションを馴染ませ圧抜きを行うなど、ポジショニングの一環として実施した。
- ・ポジショニング変更後は、モニタリングを実施。PT との連絡ツールとして、介護職員からの日々のケアで感じた質問や報告、依頼内容を記載出来るポジショニングノートを作成し活用した。又、記録や経過に併せ指示書の内容も変更した。

### 《4. 取り組みの結果》

指示書通り正しいポジショニングが詳細まで統一出来る様になった。研究前と比べてポジショニングの内容を変更したご利用者が 22 名、新たに作成した方が 8 名に増えた。PT の考えや意図、ご利用者の身体状況や実施後の様子、クッションの意味など、介護職員が詳細まで理解する事で、当てるだけのポジショニングから、筋緊張を緩和させるポジショニングケアに変化してきた。その結果、ご利用者の安楽な姿勢保持に繋げる事が出来た。

### 《5. 考察、まとめ》

介護職員のポジショニングケアに対する意識変化によって、指示書だけを見るのではなく、ご利用者のその時々の緊張具合にあったポジショニングケアが行える様になった。

PT と共同し、自らも考え、実践するポジショニングケアの対応で、ご利用者の身体に変化や改善が見られた事も、介護職員のやりがいや目標意識の向上に繋がった。

ポジショニングをチームで共有する為には、動画での確認が有効であると考えている。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人・ご家族に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得た。

### 《7. 参考文献》

- ・「写真からわかる拘縮ケア」 田中義行監修 ナツメ社 2016
- ・「拘縮予防、改善の為に介護」田中義行監修 中央法規出版 2012

### 《8. 提案と発信》

日々のポジショニングケアを実践するにあたり、どうすれば安楽な姿勢が保たれるのかを考え、ご利用者が発する身体サインを汲み取り、少しの工夫と臨機応変の対応が、ポジショニングケアであり、最も大切な介護職員の役割であると考えている。自ら訴える事の出来ないご利用者の声を聞いていきたいと思う。